

カビトメル工法

代理店 プロ仕様 施工マニュアル

防カビ 200種類以上のカビ対策

【 健康な人でもカビによって健康を害する事があります 】

素晴らしい抗菌・防カビ剤であっても、使用状況(季節・気候)、使用量使用後の処理(乾燥)が適切に行われないと残念ながらカビは発生してしまいます。施工マニュアルを正しく理解し、“安全に環境と健康を考える”をモットーとしてアレルギー、アトピー、喘息等に悩んでいる方々に少しでも喜んで頂けるよう…、そして日本古来の素晴らしい日本建築を絶やさない為にも常に前向きに探求心を持って進んで下さい。

施工マニュアル

室内(抗菌・防カビ処理工事)

使用溶剤 : カビトメル

クロス仕上げ、押入れ、クローゼット、下駄箱の内部にカビが発生している場合
(仕上げ…無塗装のベニア、シナベニア)

抗菌・防カビ剤、カビトメル(押入れ、クローゼット、下駄箱用)を充分攪拌して使用する。
塗布量…1㎡につき約150cc～200cc(2回処理で)

施工方法 ① カビ取り殺菌処理

(ハケを使用。エタノール、次亜塩素酸ソーダを使用。いずれも眼鏡、ゴム手袋、マスクを必ず使用する事。)

② 抗菌・防カビ処理(1回目)

充分攪拌した抗菌・防カビ剤をハケ及びスプレーにて塗布。
カビが発生している部分は、ハケでしごく様に塗布すると良い。
塗布忘れの無い様注意して下さい。(井桁に塗布して下さい)
乾燥時間、室温20℃以上で約2時間。
隅の方の乾燥が遅い場合はハンドドライヤー等を使用して下さい。

注意事項…カビで湿気がある場合は、作業前に少しでも乾燥を心がけて下さい。
襖などは外しておいた方が、作業性・乾燥状態が良くなります。

③ 抗菌・防カビ処理(2回目)

再度、乾燥した場所に、充分攪拌した抗菌・防カビ剤をハケ及びスプレーにて塗布(井桁に塗布して下さい)

特にカビがある場合・コーナー等は確実に充分に塗布して下さい。

余分な場所に付いたり、白く残った抗菌・防カビ剤は、ある程度乾燥してから硬く絞ったタオル等で拭き取って下さい。(気にならない場所は、出来るだけ拭き取らない事をお勧めします)

④ 乾燥(完全乾燥が基本です)→完了

ジェットヒーターにて全体を乾燥、ハンドドライヤーでコーナーを乾燥する。

常に攪拌・完全乾燥

畳・ジュタン(抗菌・防カビ処理工事)

使用溶剤 : カビトメル

【室内】無風で新畳へハンドスプレー使用の場合…1㎡に付き 150cc(2度塗布で)以上。

例 畳1枚 $\div 1.75\text{m} \times 0.85\text{m} \times 150\text{cc} = \text{約 } 220\text{cc}$ (畳1畳の塗布量)

上記の使用量は畳の敷いてある状態での塗布量です。

汚れ、ほこり等を良く除去してから、畳は乾燥した状態で塗布してください。

- 施工方法
- ① 畳の四方を塗布。(畳面～スプレー出口間、約 15cm 位離す)
 - ② 続けて、井桁に塗布。(塗布忘れ部分の無いように)
 - ③ 約 10 分～15 分後再度、井桁に塗布し、窓を全て開けて2時間位乾燥させる。
自然乾燥をしない現場は、ドライヤー・ジェットヒーター等で畳を焦がさないよう十分注意しながら強制乾燥を施す。

- * 雨の日は乾燥状態に難がある為、作業は出来るだけ避けたほうが良い。
曇りの日は、自然乾燥と強制乾燥の両面から。
晴れの日(気温 20℃以上)は、自然乾燥をメインに部分的にドライヤー等を使用すると作業性が良い。
- * 着色塗装をしてある、い草には基本的にカビトメル抗菌・防カビ剤を使用しないで下さい。

【室内】無風で古畳へハンドスプレー使用の場合…1㎡に付き 200cc(2度塗布で)以上

例…畳1枚 $\div 1.75\text{m} \times 0.85\text{m} = 1.49\text{m}^2 \times 200\text{cc} = \text{約 } 300\text{cc}$ (畳1畳の塗布量)

……カビが発生している場合を想定……

上記の使用量は畳の敷いてある状態での塗布量です。

- 施工方法
- ① 畳に生えているカビを業務用掃除機(出来ればバキューム式)で良く吸い取る
尚、掃除機で取りきれないカビが残っている場合は、目に沿ってハケ等で落とし再度掃除機を掛ける。
 - ② 殺菌剤(消毒用エタノール)を1畳に付き約 120ccを塗布し、良く乾燥させる。
(乾燥は晴れた日で1時間くらい)
 - ③ 畳の四方を塗布。(畳面～スプレー出口間、約 15cm位離す)
 - ④ 続けて、井桁に塗布。(塗布忘れ部分の無いように)
 - ⑤ 約 10 分～15 分後再度、井桁に塗布(*以下の内容は、1に準ずる)
畳は、カビトメル(畳・ジュタン用…10L、ポリ容器入れ)を使用して下さい。
-

浴室用(抗菌・防カビ処理工事)

使用溶剤：カビトメル

浴室タイル壁面・タイル床面の目地に、カビが発生している場合

施工方法 ① カビ取り殺菌処理を行う。

次亜塩素酸ソーダをカビの出ている場所にハケ等で塗布し、20～30分放置後水洗い(シャワー等)にて汚れ及び次亜塩素酸の除去。タオルで拭き取り後、乾燥は室温 20℃以上の場合で約 2 時間。

* カビの生えていない場所も全て塗布してください。(カビの孢子があります)

* 乾燥は、ジェットヒーターを使用する事により、だいぶ時間の短縮が図れます。特に乾燥状態が悪い時や気温が低い時には更に有効です。乾燥しにくいコーナー等は業務用ハンドドライヤー等を使用すると良い。

乾燥が完全であるかどうかで抗菌・防カビ効果の持続の度合いが変わります。乾燥は、一番重要な過程でもあります。

注意事項…・次亜塩酸を取り扱いの際は、保護マスク、保護眼鏡、保護手袋を着用。絶対に酸性類と混合しないで下さい。(猛毒ガスを発生します)換気を出るだけ良くして作業をする。

② 抗菌・防カビ処理工事

塗布量…1㎡につき約 100cc(1回目)

乾燥したタイル壁面に、十分に攪拌した下地用(TM-1)をハケで上部より目地に沿ってたっぷりと充分塗布する。

塗布している時にも、出来るだけ攪拌を心がけてください。

* 自然乾燥は、室温 20℃以上の場合で2時間～3時間。

乾燥はジェットヒーター等を使用する事によりだいぶ時間の短縮が図れます。特に、乾燥状態が悪い時や、気温が低い時には更に有効です。乾燥しにくいコーナー等は、業務用ハンドドライヤーを使用すると良い。

③ 抗菌・防カビ処理工事(コンクリート、モルタル用(撥水、水系塗料))

塗布量…1㎡につき約 80cc(2回目、最終)

十分に攪拌しハケで上部より目地に沿ってたっぷりと充分塗布する。

更に、目地も含めタイル面全体を井桁に塗布、塗りムラが無いかどうかをチェック乾燥時間、室温 20℃以上の場合で約1時間半位。

④ タイル面拭き取り作業

- ・ 乾いたタオルでタイル面を良く拭き取る。
- ・ その場合、モルタル目地の部分は出来るだけ拭かないよう注意しながらタイル面を良く拭きとって下さい。

⑤ 乾燥(完全乾燥が基本です)→完了

基本的に完了後、24 時間(室温 20℃以上)乾燥とする。

浴室用(抗菌・防カビ処理工事)

使用溶剤：カビトメル

浴室・塗装面・塗装天井に、カビが発生している場合

施工方法 ① カビ取り殺菌処理

次亜塩素酸ソーダをカビの出ている場所にハケ等及びローラーで塗布し20～30分放置後、水洗い(シャワー等)にて汚れ及び次亜塩素酸の除去。タオルで拭き取り後、乾燥、20℃以上の場合で約2時間。

- * カビの生えていない場所も全て塗布してください。(カビの孢子あり)
- * 乾燥は、ジェットヒーターを使用する事により、だいぶ時間の短縮が図れます。特に乾燥状態が悪い時や気温が低い時には、更に有効です。乾燥しないコーナー等は業務用ハンドドライヤー等を使用すると良い。

注意事項…次亜塩酸を取り扱いの際は、保護マスク、保護眼鏡、保護手袋を着用。絶対に酸性類と混合しないで下さい。(猛毒ガスを発生します)換気出来るだけ良くして作業をする。

② 抗菌・防カビ下地処理工事(充分攪拌して使用する)

塗布量…1㎡につき約150cc～200cc(2度処理で)

乾燥した壁面(天井)に、充分攪拌した下地用(TM-1)をハケ・ローラー・スプレー等で塗布する。

室温20℃以上で約1時間ほど乾燥後(湿っている部分は必ずハンドドライヤー等で乾燥させて下さい)再度、下地用抗菌・防カビ剤を塗布。

注意事項…艶あり塗装や溶剤系塗装の場合は、抗菌・防カビ剤が浸透しないのでサンドペーパーを掛けてから塗ってください。

③ 防カビ塗装工事

水系塗料に混入し、充分に攪拌する。床・その他養生後、防カビ塗装工事、2回塗り。

④ 乾燥(完全乾燥が基本です)→完了

基本的に完了後、24時間(室温20℃以上)乾燥とする。

- * 上記、②の説明は塗料面が平面の場合の塗布量です。リシン掻き落とし等の場合は、その数倍の量が必要になります。